# Press Release

株式会社リクルート

2022年2月2日

「ICT活用」編

株式会社リクルート・一般社団法人 全国高等学校ＰＴＡ連合会合同調査
第10回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2021

# 高校生・保護者共に 高校でのICT活用で「個別最適化学習」に 最も期待

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）と一般社団法人 全国高等学校ＰＴＡ連合会（所在地：東京都千代田区 会長：泉 満）は、高校２年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。本調査によるリリースは「コミュニケーション」編（1月27日発表済）、「ＩＣＴ活用」編の計２つあり、 本リリースは「ＩＣＴ活用」編です。 ※本調査は『リクルート進学総研』と「一般社団法人 全国高等学校ＰＴＡ連合会」が2003年より隔年で実施しており、今回で第10回目を迎えます。


**解説：『キャリアガイダンス』編集長 赤土 豪一：P2**

**高校におけるＩＣＴ活用への期待：P4～5**

- ICTの活用により期待できる効果は、「一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる」が高校生（45%）保護者（34%）で共にトップ。次いで高校生は 「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる（27%）」、保護者は「多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる（32%）」。
- 今後のICTの活用意向は「授業」「宿題」「コミュニケーション」などに幅広い期待。一方で「まだ活用のイメージがついていない」という層も高校生、保護者共に24％存在

**現在の活用状況：P6～8**

- 高校生の75%・保護者の56%が、自校で「活用している」と実感。
  （参考：高校教師の回答は97% ※2021年2月実施「高校教育改革に関する調査2021」より）
- 良かった点はオンラインで授業（高校生50%/保護者52%）や学校からの連絡（同38%/42%）、宿題などの自宅学習（同28%/27%）ができたこと。
- 困った点は、高校生はデジタルネイティブらしく「特にない（24%）」がトップ。次いで、「学校や教員によってICTの活用度に差がある（23%）」「紙の教材のほうが勉強がしやすい（22%）」と続く。保護者のトップは「勉強しているのか、遊んでいるのかがわからない（31%）」。

**教育改革への期待と不安：P9～12**

- 高校・大学の教育改革に対しては、高校生・保護者共に全ての項目で期待が不安を上回り、入学者選抜に対しては、５項目中３項目で不安が期待を上回る。
- 自分の高校が教育改革への対応を行っていると感じているのは、高校生の25%、保護者の18%。
- 具体的に変化を感じている取り組みのトップには、高校生は日々の授業の変化を（「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」54%、前回差+3pt）、保護者は探究学習を（「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」65%、同+19pt）挙げている。
- 前回調査からの比較では、高校生は「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」の伸びがトップ（37%、同+26pt）となっており、関心の高さがうかがえる結果となった。



※出版・印刷物、WEBサイト等へデータを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2021」リクルートキャリアガイダンス調べ”と明記ください。



**本件に関するお問い合わせ先**

https://www.recruit.co.jp/support/form/

『リクルート進学総研』WEBサイト http://souken.shingakunet.com/

## 解説：『キャリアガイダンス』編集長 赤土 豪一

### ■ 教育を受ける側も「個別最適な学び」への期待高まる

文科省が目指すべき次世代の学校・教育現場のキーワードに「個別最適な学び」を掲げており、学習者にとって最も適した条件や環境の下で自らの学びを成り立たせていくことが目指されています。これまで、弊社が実施してきた「高校教育改革に関する調査」で教師がICTを活用して狙いたい効果や変化において「個別最適化学習」が上位に挙がっていましたが、今回教育を受ける生徒やその保護者においても「個別最適化学習」が求められていることが分かる結果となりました。

### ■ 活用実感はこれからさらなる高まりが見込まれる

その一方で、高校でICTを「活用している」と回答した高校生は75%、保護者は56%と、現時点での活用実感はまだ道半ばといった印象。また、高校生の「高校でのICTの活用について困った・問題だと思った点」として、「学校や教員によってICTの活用度に差がある（23%）」の選択肢がトップに来ています。しかしながら、高校でも今まさに端末一人一台の整備が進められ、より良い学びへどうICTを活用していくか模索している最中です。弊社の『スタディサプリ』を導入いただいている学校でも、「個別最適化学習」が進められることによって生徒の学びへの意欲が向上したり、成績の下位層の底上げがみられてきたといったお声は増えてきています。今後、各学校での好事例が学校間・教員間で共有・展開されていくことで、高校でのICTを活用した「個別最適化学習」はさらに定着していくものと考えられます。また、学習が個別最適化のみをゴールとするのではなく、その中で生徒一人ひとりが自分のあり方・生き方につながっていくような興味のある問いをもち、探究的な学びに　時間を費やせるようになる環境についても、今後期待していきたいと考えます。


**赤土 豪一（しゃくど ごういち）**

**リクルート『キャリアガイダンス』編集長**

同志社大学商学部、早稲田大学大学院商学研究科（MBA）修了。2008年、新卒で教育関連企業へ入社。マーケティング／教材開発へ従事。その後、株式会社リクルートへ転職。以降、アナログ／デジタルを問わず、一貫して『スタディサプリ』における高校生向けキャリア教育プログラムの開発に従事。『スタディサプリ進路』編集デスクを経て、2021年4月より、教員向け専門誌『キャリアガイダンス』編集長へ就任。


Career Guidance

## 調査概要

■調査目的：高校生の保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する

■調査主管：株式会社リクルート、一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

■調査対象：高校２年生とその保護者、一般社団法人 全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計26校の公立高校（北海道のみ2校）

※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

| | |
|---|---|
| 2021年 | 北海道 山形 茨城 東京 新潟 三重 和歌山 島根 沖縄 |
| 2019年 | 北海道 青森 山梨 東京 石川 愛知 和歌山 鳥取 熊本 |
| 2017年 | 北海道 岩手 福島 群馬 東京 長野 岐阜 大阪 和歌山 岡山 長崎 |

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考

■調査期間：2021年9月14日～10月28日

■調査方法：学校を通した質問紙による自記式調査／またはWEB画面からの回答

（1）高校生　ホームルームにてアンケートを配布

（2）保護者　高校生から保護者へアンケートを手渡し

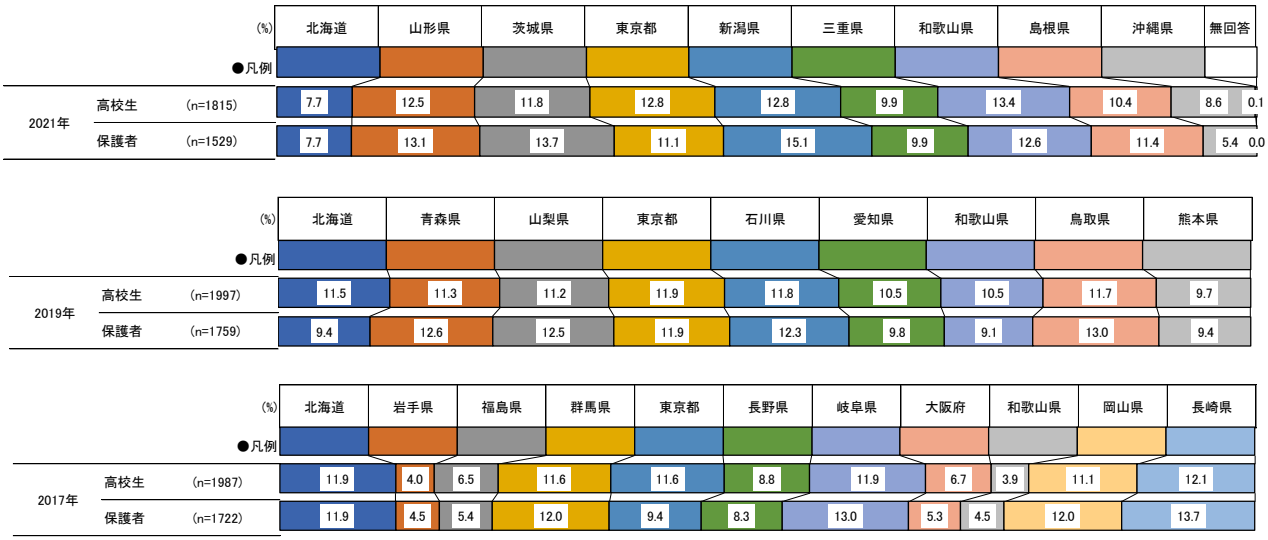
（3）紙調査票に回答、または記載のURLなどからWEB調査画面にアクセスして回答

（4）紙調査票またはWEBへの回答完了証を学級担任が取りまとめ、学校責任者が返送

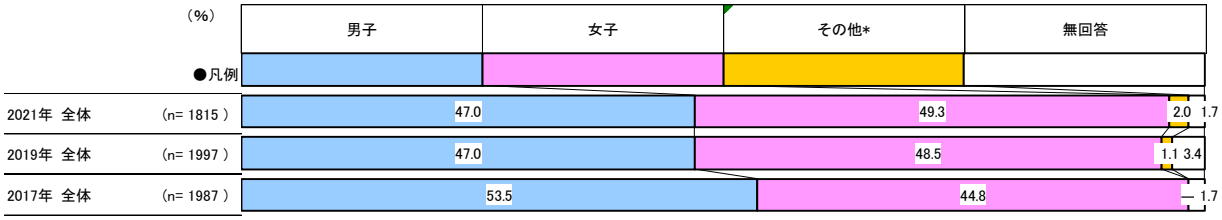
■有効回収数：（1）高校生　1,815名　（2）保護者　1,529名

## 回答者プロフィール

### 【高校生・保護者】時系列 調査対象校所在都道府県（全体）

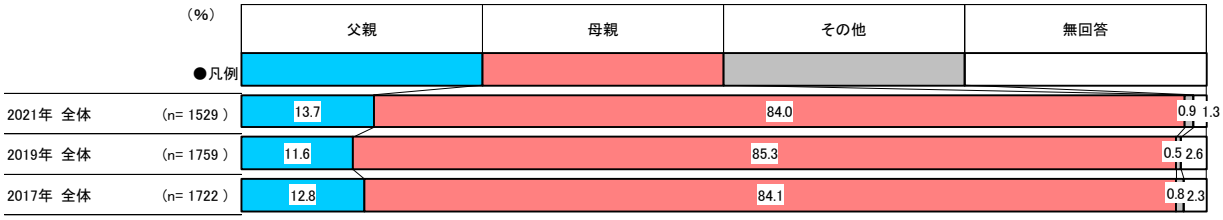



### 【高校生】時系列 性別（全体／単一回答）




*）2017年調査では「その他」の選択肢なし

### 【保護者】時系列 続柄（全体／単一回答）

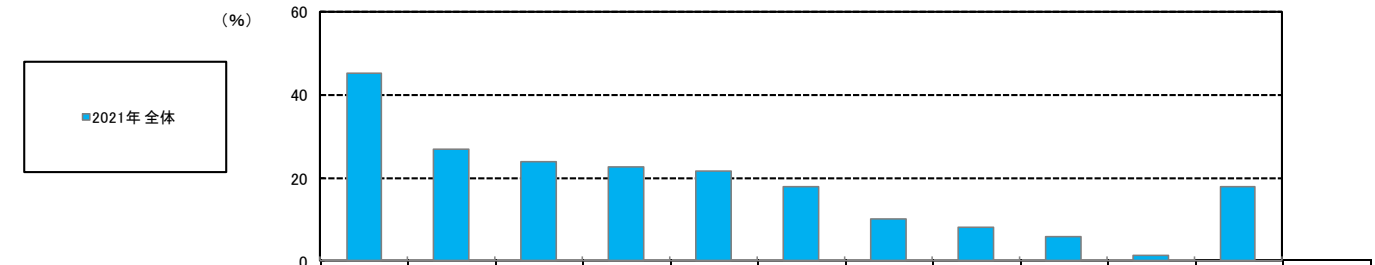


## 高校におけるＩＣＴ活用への期待

■ 期待できる効果は、「一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる」が高校生 45%、保護者34%で共にトップ。

■ 次いで高校生は 「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる（27%）」、保護者は「多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる（32%）」。

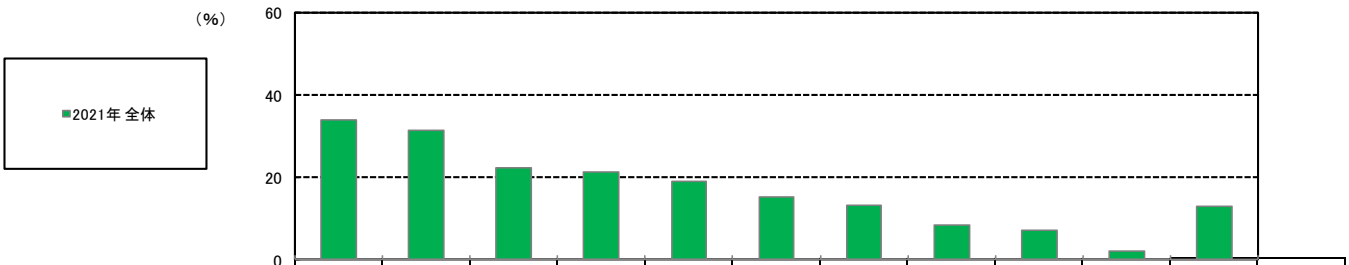
### 【高校生】ICT活用によって期待できる変化や効果（全体／複数回答）




| | 調査数 | 一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる | 学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる | 授業外の家庭学習（課題）等も含め、学習時間が伸びる | 自分にとって最適な学習を探りながら自学自習できるようになる | 多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる | 先生方の負担軽減・校務の効率化 | 授業の中で、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習ができる | 学習ログ、ポートフォリオ等を活用することで、先生の授業や各種指導の質が上がる | オンラインを活用した保護者との連携が強化される | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年　全体 | 1815 | 45.2 | 26.9 | 24.0 | 22.6 | 21.7 | 17.9 | 10.2 | 8.2 | 5.8 | 1.4 | 17.9 | 2.1 |

※「2021年全体」降順ソート

### 【保護者】ICT活用によって期待できる変化や効果（全体／複数回答）



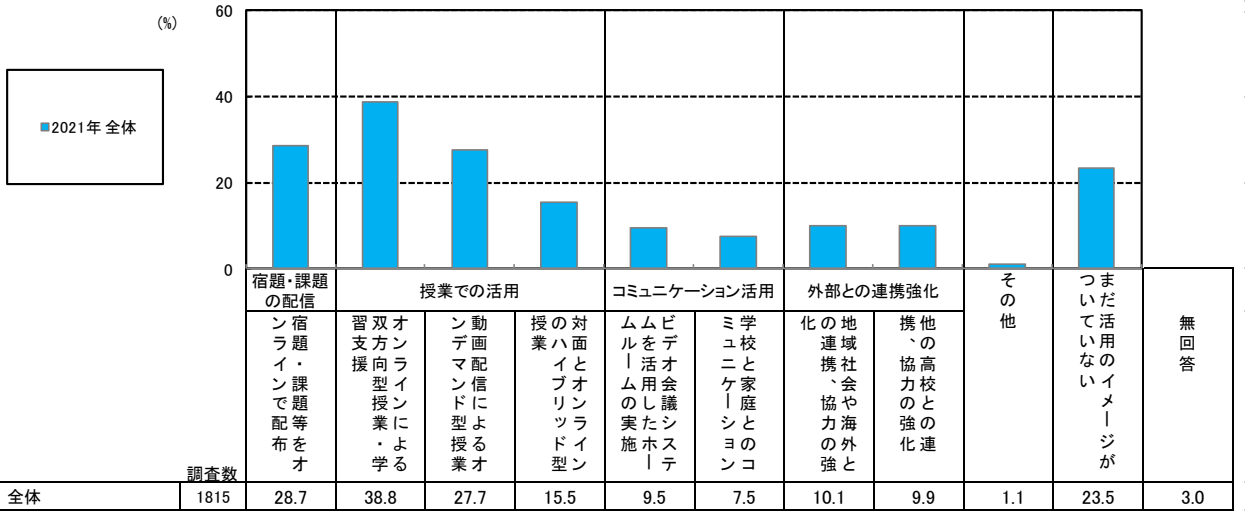

| | 調査数 | 一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる | 多様なリソース（情報や人）にアクセスできることで、学びが深まる | 学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる | 自分にとって最適な学習を探りながら自学自習できるようになる | 授業外の家庭学習（課題）等も含め、学習時間が伸びる | 授業の中で、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習ができる | 先生方の負担軽減・校務の効率化 | オンラインを活用した保護者との連携が強化される | 学習ログ、ポートフォリオ等を活用することで、先生の授業や各種指導の質が上がる | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年　全体 | 1529 | 34.0 | 31.5 | 22.3 | 21.3 | 19.0 | 15.3 | 13.3 | 8.4 | 7.3 | 2.1 | 13.0 | 10.1 |

※「2021年全体」降順ソート

## 高校におけるＩＣＴ活用への期待

■ 今後のICTの活用意向は、「授業」や「宿題・課題」「コミュニケーション」などに幅広い期待。
一方で、「まだ活用のイメージがついていない」という層も高校生、保護者共に24%存在

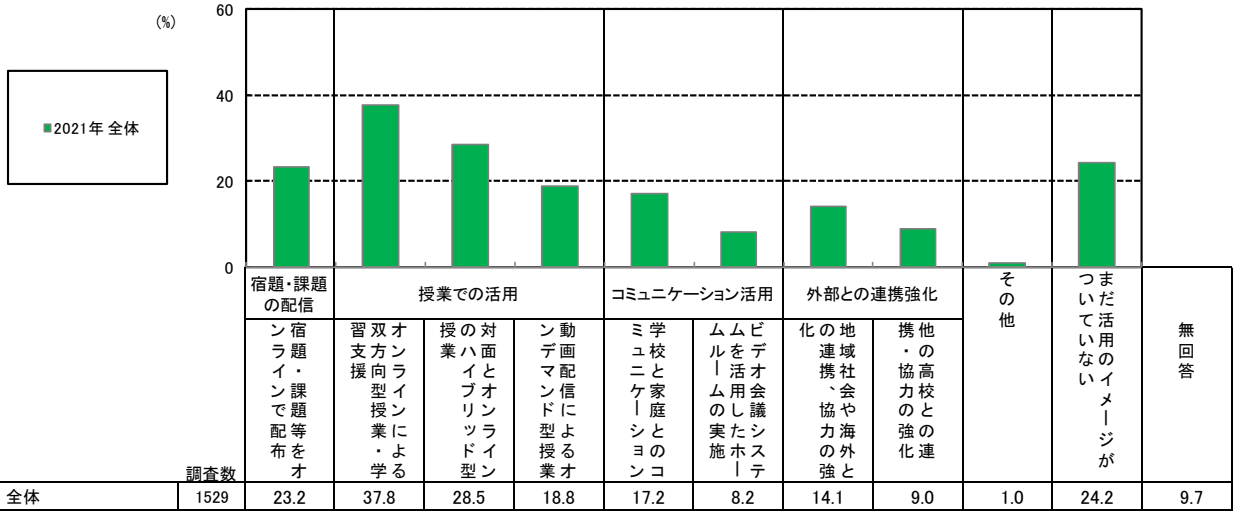
### 【高校生】学校や自宅での今後のICT活用意向（全体／複数回答）




| | 調査数 | 宿題・課題の配信 | 授業での活用 | | | コミュニケーション活用 | | 外部との連携強化 | | その他 | まだ活用のイメージがついていない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 宿題・課題等をオンラインで配布 | オンラインによる双方向型授業・学習支援 | 動画配信によるオンデマンド型授業 | 対面とオンラインのハイブリッド型授業 | ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施 | 学校と家庭とのコミュニケーション | 地域社会や海外との連携、協力の強化 | 他の高校との連携、協力の強化 | | | |
| 2021年　全体 | 1815 | 28.7 | 38.8 | 27.7 | 15.5 | 9.5 | 7.5 | 10.1 | 9.9 | 1.1 | 23.5 | 3.0 |

※カテゴリごと降順ソート

### 【保護者】学校や自宅での今後のICT活用意向（全体／複数回答）




| | 調査数 | 宿題・課題の配信 | 授業での活用 | | | コミュニケーション活用 | | 外部との連携強化 | | その他 | まだ活用のイメージがついていない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 宿題・課題等をオンラインで配布 | オンラインによる双方向型授業・学習支援 | 対面とオンラインのハイブリッド型授業 | 動画配信によるオンデマンド型授業 | 学校と家庭とのコミュニケーション | ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施 | 地域社会や海外との連携、協力の強化 | 他の高校との連携・協力の強化 | | | |
| 2021年　全体 | 1529 | 23.2 | 37.8 | 28.5 | 18.8 | 17.2 | 8.2 | 14.1 | 9.0 | 1.0 | 24.2 | 9.7 |

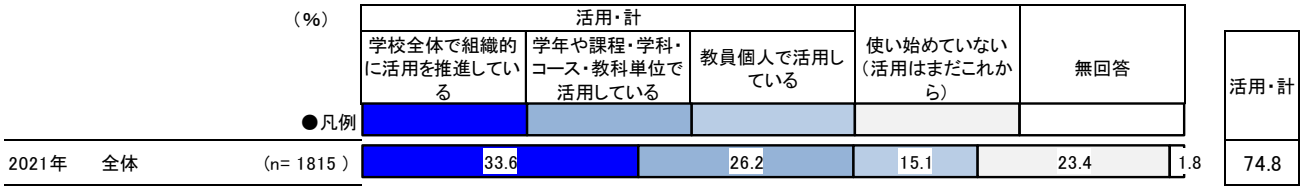
※カテゴリごと降順ソート

## 現在の活用状況

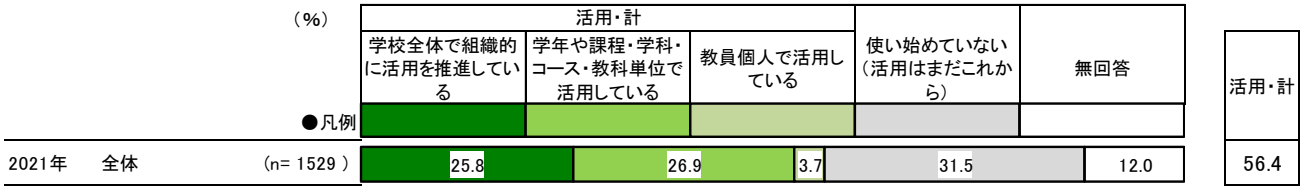
**■高校生の75%・保護者の56%が、自校で「ICTを活用している」と感じている。**

（参考：高校教師に向けた調査では、97%が「活用している」と回答 ※2021年2月実施「高校教育改革に関する調査2021 」より http://souken.shingakunet.com/research/kaikaku2021_release01.pdf ）

### 【高校生】高校でICTを活用しているか（全体／単一回答）

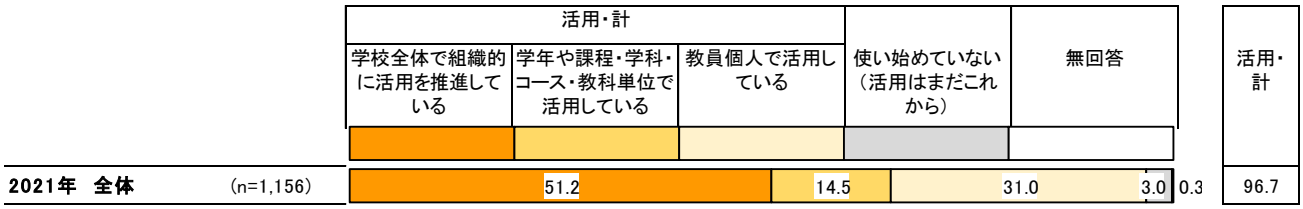



### 【保護者】子どもが通っている高校でICTを活用しているか（全体／単一回答）




### 参考：【高校教師】教育活動にICTを活用しているか（全体／単一回答）

2021年2月実施「高校教育改革に関する調査2021」より



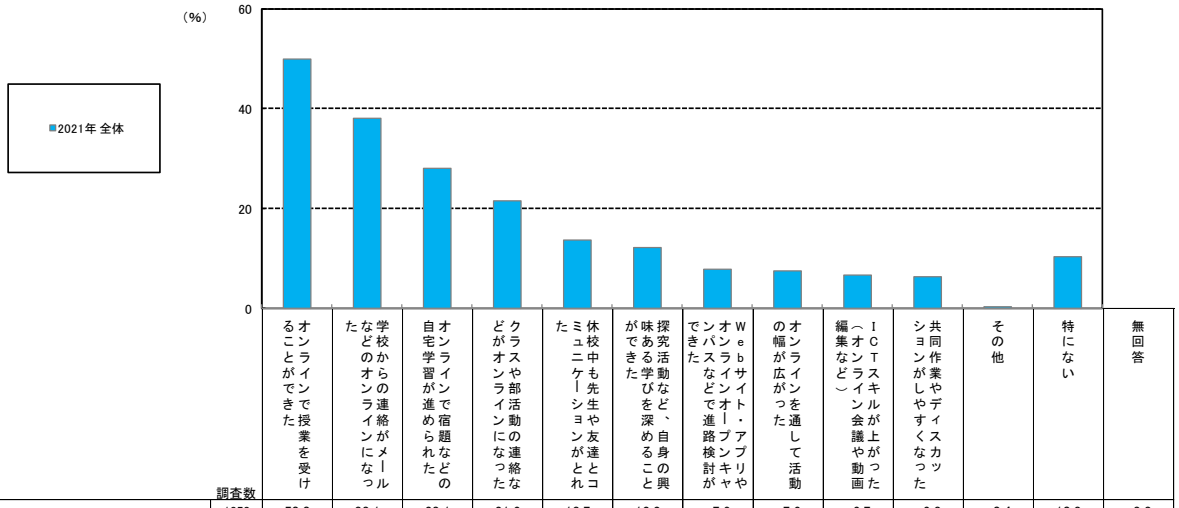
## 現在の活用状況

■良かった点はオンラインで授業（高校生50%/保護者52%）や学校からの連絡（同38%/42%）、宿題などの自宅学習（同28%/27%）ができたこと。

■ＩＣＴ活用状況別に見ると、「学校全体で組織的に」活用している場合が比較的高いが、特に授業においては、「学年や課程・学科・コース・教科単位」や「教員個人」で活用している場合と比べて高校生、保護者共に認識に大きな差が出ている。

### 【高校生】高校でのICTの活用について良かった点

（学校でICTを活用している／複数回答）

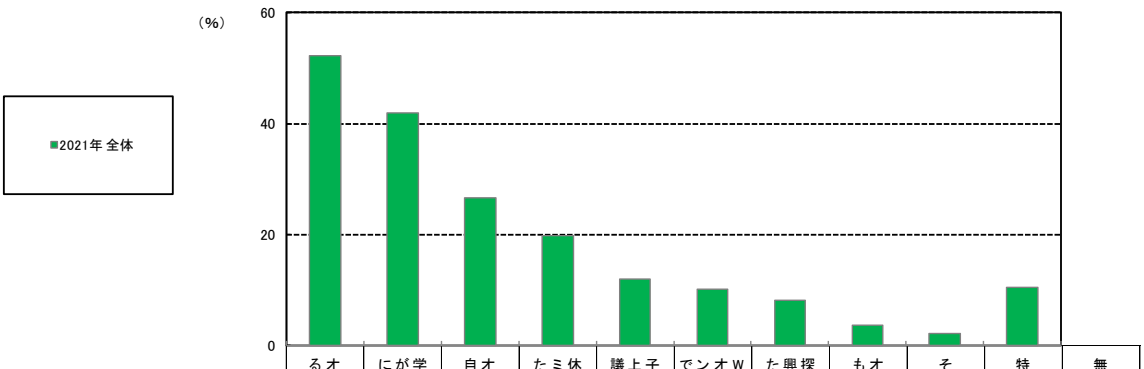



| | | 調査数 | オンラインで授業を受けることができた | 学校からの連絡がメールなどのオンラインになった | オンラインで宿題などの自宅学習が進められた | クラスや部活動の連絡などがオンラインになった | 休校中も先生や友達とコミュニケーションがとれた | 探究活動など、自身の興味ある学びを深めることができた | Webサイト・アプリやオンラインオープンキャンパスなどで進路検討ができた | オンラインを通して活動の幅が広がった | ICTスキルが上がった（オンライン会議や動画編集など） | 共同作業やディスカッションがしやすくなった | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年 | 全体 | 1358 | 50.0 | 38.1 | 28.1 | 21.6 | 13.7 | 12.2 | 7.9 | 7.6 | 6.7 | 6.3 | 0.4 | 10.3 | 3.3 |
| ICT活用状況別 | 学校全体で組織的に活用 | 609 | 58.0 | 39.2 | 30.0 | 22.0 | 16.3 | 13.3 | 7.6 | 8.0 | 7.2 | 6.7 | 0.2 | 9.2 | 0.5 |
| | 学年や課程・学科・コース・教科単位で活用 | 475 | 45.7 | 38.5 | 26.3 | 22.1 | 11.2 | 14.7 | 8.2 | 6.3 | 5.5 | 7.2 | 0.8 | 10.3 | 2.9 |
| | 教員個人で活用 | 274 | ***39.8*** | 35.0 | 27.0 | 19.7 | 12.4 | 5.5 | 8.0 | 8.8 | 7.7 | 4.0 | — | 12.8 | 10.2 |

※「2021年全体」降順ソート　※ 100 「2021年全体」より10pt以上高い
***100*** 「2021年全体」より10pt以上低い

### 【保護者】高校でのICTの活用について良かった点

（学校でICTを活用している／複数回答）




| | | 調査数 | オンラインで授業を受けることができた | 学校から保護者へのメールなどオンラインになった | オンラインで宿題などの自宅学習が進められた | 休校中も先生や友達とコミュニケーションがとれた | 子どものICTスキルが上がった（オンライン会議や動画編集など） | Webサイト・アプリやオンラインオープンキャンパスなどで進路検討ができた | 探究活動など、子どもが興味ある学びを深められた | オンラインを通して子どもの活動の幅が広がった | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年 | 全体 | 863 | 52.3 | 41.9 | 26.7 | 19.8 | 11.9 | 10.1 | 8.1 | 3.7 | 2.1 | 10.4 | 2.7 |
| ICT活用状況 | 学校全体で組織的に活用 | 395 | 64.1 | 43.3 | 31.4 | 21.5 | 14.9 | 11.1 | 9.9 | 5.1 | 1.5 | 6.8 | 0.5 |
| | 学年や課程・学科・コース・教科単位で活用 | 411 | 44.5 | 41.8 | 23.8 | 18.2 | 9.5 | 9.5 | 6.6 | 2.9 | 2.9 | 13.4 | 1.9 |
| | 教員個人で活用 | 57 | ***26.3*** | 33.3 | ***14.0*** | 19.3 | 8.8 | 7.0 | 7.0 | — | — | 14.0 | 22.8 |

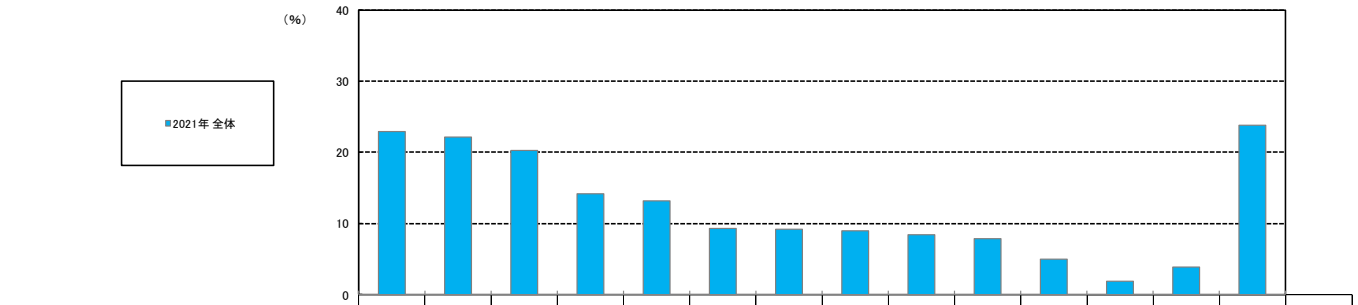
※「2021年全体」降順ソート　※ 100 「2021年全体」より10pt以上高い
***100*** 「2021年全体」より10pt以上低い

## 現在の活用状況

■困った点は、高校生はデジタルネイティブらしく「特にない（24%）」がトップ。次いで、「学校や教員によってICTの活用度に差がある（23%）」「紙の教材のほうが勉強がしやすい（22%）」と続く。保護者のトップは「勉強しているのか、遊んでいるのかがわからない（31%）」。

■「スマホしかなく、画面が小さくて文字が見えにくい（20%）」、「家庭の負担でICT端末を準備しなければならない（9%）」などは残るものの、課題の多くは端末や通信などのハードよりも教員による活用差や自らの勉強のしやすさ、健康面など使い方に関するものとなっている。

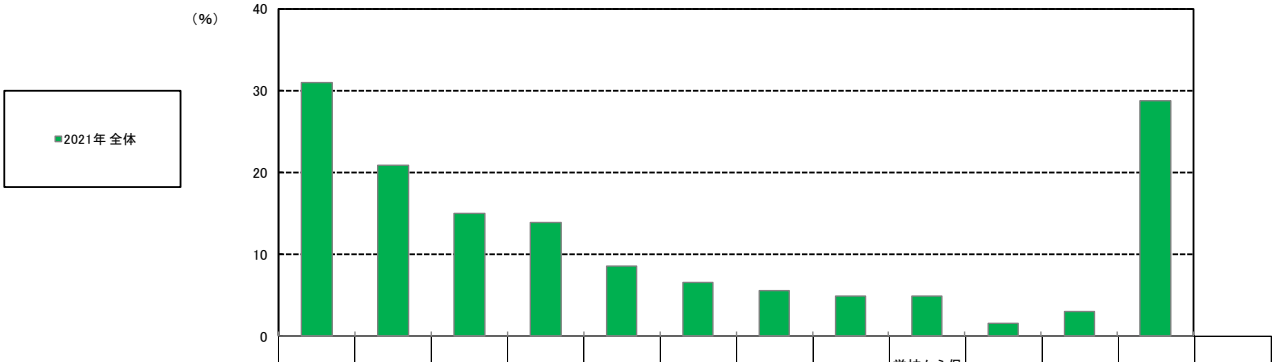
### 【高校生】高校でのICTの活用について困った・問題だと思った点（学校でICTを活用している／複数回答）




| | | 調査数 | 学校や教員によってICTの活用度に差がある | 紙の教材のほうが勉強がしやすい | スマホしかなく、画面が小さくて文字が見えにくい | つい学習以外の用途に利用してしまう | パソコンやアプリなど、使い方が分かりにくい | アクセス制限があり使えないサービスやWebサイトがある | 健康面で良くない影響がある | 自宅内で集中して学習できるスペースがない | 自分専用のICT端末がない | 通信量が増加し、通信料金が高くなったり低速化した | 学校の端末を持ち帰ることができない | 自宅にWi-Fiがない、使えない | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年 | 全体 | 1358 | 22.9 | 22.2 | 20.3 | 14.2 | 13.2 | 9.3 | 9.2 | 8.9 | 8.4 | 7.8 | 4.9 | 1.9 | 3.9 | 23.8 | 6.4 |
| ICT活用状況別 | 学校全体で組織的に活用 | 609 | 20.4 | 23.3 | 16.3 | 13.3 | 14.4 | 7.6 | 8.9 | 9.4 | 6.4 | 5.6 | 3.9 | 2.0 | 3.4 | 29.2 | 4.6 |
| | 学年や課程・学科・コース・教科単位で活用 | 475 | 21.5 | 21.7 | 24.0 | 13.9 | 14.3 | 11.2 | 10.3 | 9.1 | 9.1 | 8.8 | 7.2 | 1.5 | 3.2 | 20.0 | 6.5 |
| | 教員個人で活用 | 274 | 31.0 | 20.4 | 22.6 | 16.8 | 8.4 | 9.9 | 8.0 | 7.7 | 11.7 | 10.9 | 3.3 | 2.6 | 6.2 | 18.2 | 10.2 |

※「2021年全体」降順ソート　※ 100 「2021年全体」より10pt以上高い
100 「2021年全体」より10pt以上低い

### 【保護者】高校でのICTの活用について困った・問題だと思った点（学校でICTを活用している／複数回答）




| | | 調査数 | 勉強しているのか、遊んでいるのかがわからない | 学校や教員によってICTの活用度に差がある | SNSなどの活用により様々な危険性がある | 健康面で良くない影響がある | 家庭の負担でICT端末を準備しなければならない | 自宅内で集中して学習できるスペースがない | 学校の端末を持ち帰ることができない | 通信量が増加し、通信料金が高くなったり低速化した | 学校から保護者への連絡がメールなどオンラインになった | 自宅にWi-fiがない、使えない | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年 | 全体 | 863 | 30.9 | 20.9 | 14.9 | 13.9 | 8.6 | 6.5 | 5.6 | 4.9 | 4.9 | 1.5 | 3.0 | 28.7 | 6.8 |
| ICT活用状況別 | 学校全体で組織的に活用 | 395 | 31.9 | 15.7 | 14.4 | 13.9 | 9.4 | 7.3 | 4.8 | 4.8 | 5.8 | 1.3 | 2.8 | 30.6 | 4.8 |
| | 学年や課程・学科・コース・教科単位で活用 | 411 | 29.7 | 24.3 | 15.3 | 14.4 | 6.8 | 5.8 | 6.3 | 5.1 | 3.9 | 1.5 | 2.9 | 29.2 | 6.8 |
| | 教員個人で活用 | 57 | 33.3 | 31.6 | 15.8 | 10.5 | 15.8 | 5.3 | 5.3 | 3.5 | 5.3 | 3.5 | 5.3 | 12.3 | 21.1 |

※「2021年全体」降順ソート　※ 100 「2021年全体」より10pt以上高い
100 「2021年全体」より10pt以上低い

## 教育改革への期待と不安

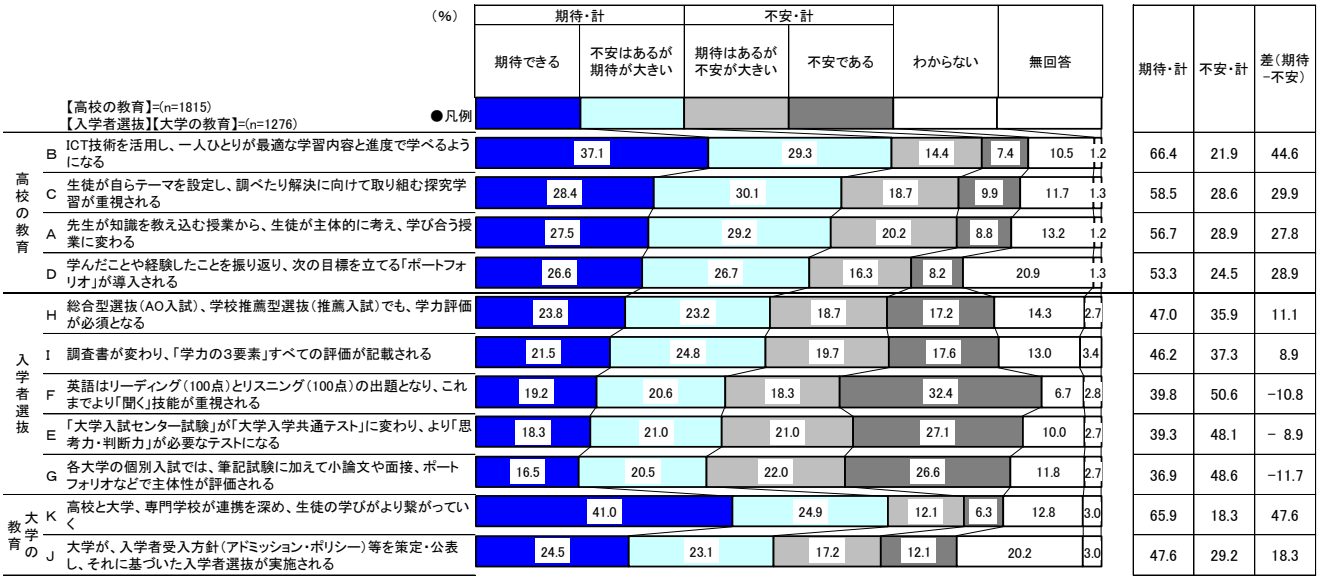
■高校・大学の教育改革に対しては、高校生・保護者共に全ての項目で期待が不安を上回り、
入学者選抜に対しては、5項目中３項目で不安が期待を上回る。

■高校生と保護者の「高校の教育」に関しての期待のトップはそれぞれ、
高校生「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」66%
保護者「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」66%

■また、高校生・保護者共に「高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく」
高大接続に対しては7割近くが期待を寄せるなど、期待が不安を大きく上回っている。

### 【高校生】教育改革の内容への期待と不安

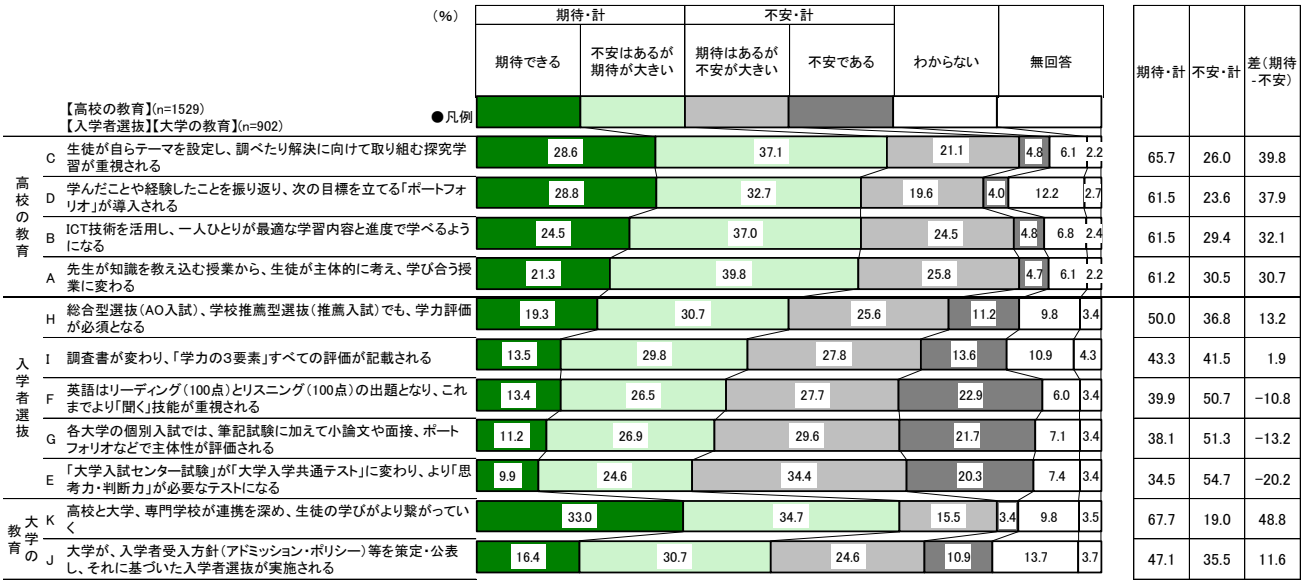
（【高校の教育】全体、【入学者選抜】【大学の教育】大学・短大進学希望者／各単一回答）




※カテゴリごと「期待・計」降順ソート

### 【保護者】教育改革の内容への期待と不安

（【高校の教育】全体、【入学者選抜】【大学の教育】大学・短大進学希望者／各単一回答）




※カテゴリごと「期待・計」降順ソート

## 教育改革への期待と不安

### 【高校生】教育改革に対する期待と不安（フリーコメント）　※回答の原文ママ

**期待**

「勉強を自分の進度に合わせてできるようになる。」
「教師から教えられるだけではなく自分たちで考えることで学力が伸びると思う。」
「高校生が社会に出た時に自分の軸を持って物事を見れるように、高校のうちから他人の意見を共有する機会を作ること。」
「一人一人の個性をより発揮出来るようになる。」
「学校での学習が生徒が中心となって行われると、生徒一人一人の好奇心や向上心が上がると思う。」
「生徒が積極的に人前で発言することで、自信がついて社会に出た時に生かせる。」
「学力に加え、その人自身の人間性が評価されるようになる。」

**不安**

「変わりすぎて適応できるか不安。」
「自主的を重んじすぎて、苦手な子達がどうなるのか。」
「自分たちが主体で学ぶことによって、知識は身につくのか。」
「『学力の３要素』の評価を点数でつけることは難しく、基準がわかりづらい。」
「学力だけでないその人の特性をどう判断するのか。」
「自分の能力の有無がはっきり伝えられる気がして怖い。」
「大学がアドミッションポリシーを公開していても抽象的でどう活かしたらいいのかわからない。」
「入試のやり方がこれからもコロコロ変わるのだろうか。」
「環境によって差が出そう。」

### 【保護者】教育改革に対する期待と不安（フリーコメント）　※回答の原文ママ

**期待**

「学ぶ意欲を高めて欲しい。」
「変化により子供の新たな力が発掘できる。」
「主体的に考え、調べたり、解決に向けて取り組む授業によって必要な力が身につく。」
「自分で考え行動出来る人材の育成。」
「学力重視から個人の主体性重視に変わることで、社会でも通用する。」
「好きなこと、興味を掘り下げ、自分の生き方も含めて考え進学できる。」

**不安**

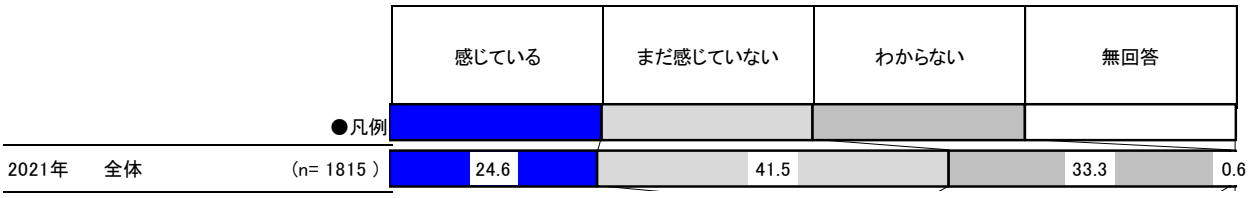
「親が教育改革をしっかり把握できていない為、子供にアドバイスできない。」
「『思考力、判断力』と急に言われても対策が出来ない。小さい頃からの教育が必要では？」
「一人ひとりが最適な学習内容と進度で学ぶ＝学力格差が広がるのでは。」
「生徒個人の活動をどのように評価して、大学の合否を判定するのか。」
「今まで以上に子供達に負担が増えないか。」
「それに取り組む教師の資質と負担増。」
「今までの教育がそうなっていないので、社会も教師も変換自体が困難ではないか。」

## 教育改革への期待と不安

■自分の高校が教育改革への対応を行っていると感じているのは、高校生の25%、保護者の18%。

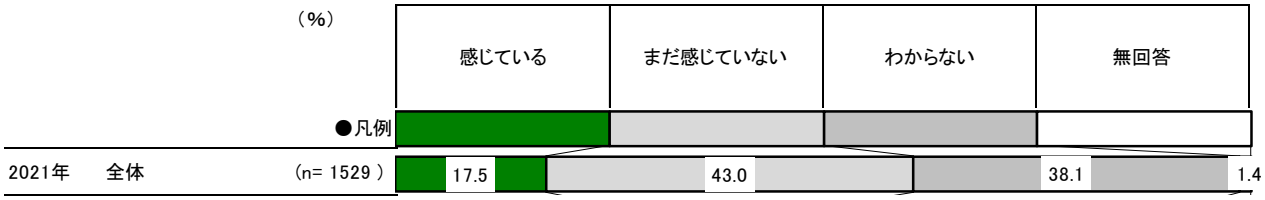
### 【高校生】通っている高校は教育改革への対応を行っていると感じているか

（全体／単一回答）




### 【保護者】子どもが通っている高校は教育改革への対応を行っていると感じているか

（全体／単一回答）



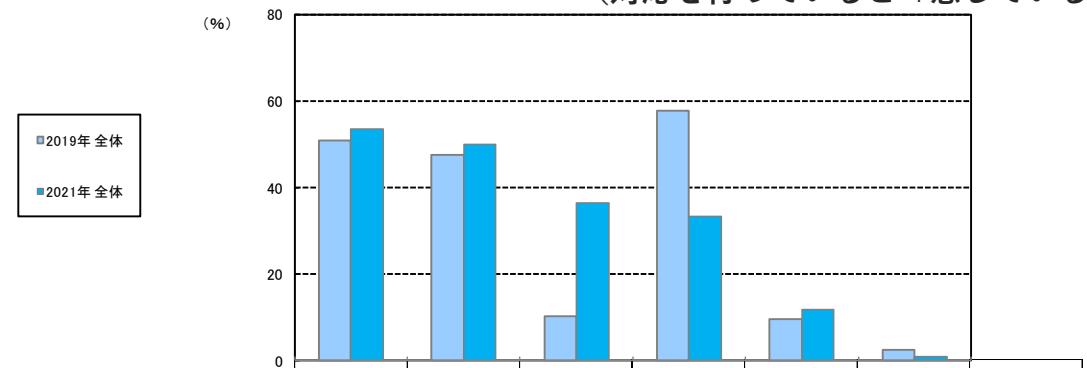
## 教育改革への期待と不安

**■具体的に変化を感じている取り組みのトップには、高校生は日々の授業の変化を（「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」54%、前回差+3pt）、保護者は探究学習を（「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」65%、同+19pt）挙げている。**

**■前回調査からの比較では、高校生では「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」の伸びがトップ（37%、同+26pt）となっており、関心の高さがうかがえる。一方で「ポートフォリオ」は、高校生（33%、同▲24pt）、保護者（19%、同▲16pt）共に大きく減少した。**

### 【高校生】通っている高校での教育改革への取り組み内容

（対応を行っていると「感じている」／複数回答）

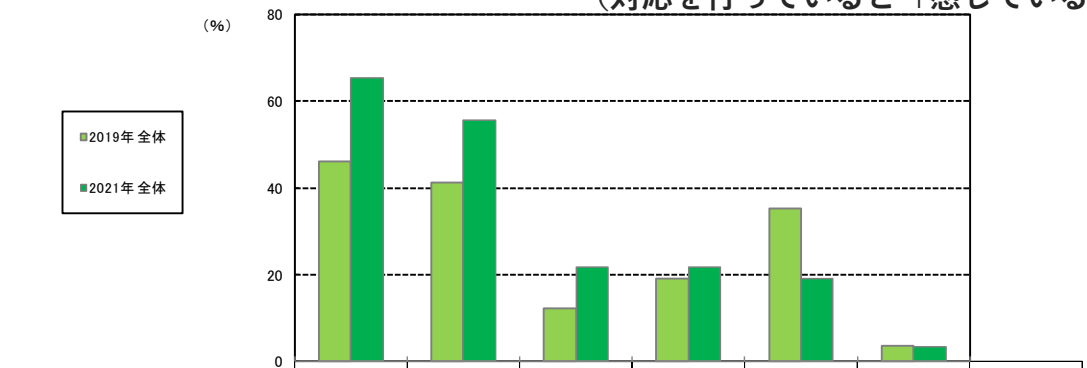



| | 調査数 | 先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる | 生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される | ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる | 学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される | 生徒自身が基礎学力の定着を把握し、今後の学習活動に繋げる「高校生のための学びの基礎診断」が導入される | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年　全体 | 446 | 53.6 | 50.0 | 36.5 | 33.4 | 11.9 | 0.9 | 2.5 |
| 2019年　全体 | 760 | 50.8 | 47.5 | 10.3 | 57.8 | 9.7 | 2.5 | 4.6 |

※「2021年全体」降順ソート　※ 100.0 各年で最も高い
100.0 各年で2～3番目に高い

### 【保護者】子どもが通っている高校での教育改革への取り組み内容

（対応を行っていると「感じている」／複数回答）




| | 調査数 | 生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される | 先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる | ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる | 生徒自身が基礎学力の定着を把握し、今後の学習活動に繋げる「高校生のための学びの基礎診断」が導入される | 学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021年　全体 | 268 | 65.3 | 55.6 | 21.6 | 21.6 | 19.0 | 3.4 | 4.5 |
| 2019年　全体 | 420 | 46.2 | 41.2 | 12.1 | 19.0 | 35.2 | 3.6 | 9.5 |

※「2021年全体」降順ソート　※ 100.0 各年で最も高い
100.0 各年で2～3番目に高い

## リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万5,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2019年度の売上収益は2兆3,994億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
リクルートグループ：https://recruit-holdings.co.jp/　　リクルート：https://www.recruit.co.jp/